或る雨の日に。

都神紗茅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
或る雨の日に。

【Ｎコード】
Ｎ０９３２Ｌ

【作者名】
都神紗茅

【あらすじ】
タイトル通り、とある雨の日の話。突然降り出した雨、蘭が思うことは…

どっちつかずな天気だった今朝とはうってかわって、夕方頃から雨が降り始めた。
誰もが――否、殆どの予想していなかった展開だ。授業を終えて帰宅の準備に取りかかっていた帝丹高校二年Ｂ組の生徒たちは、口々に不満を漏らした。

「うわ、雨降ってるし」
「最悪！　今日傘持ってきてないのに」
「天気予報じゃ一日曇りだって言ってたのになぁ」

教科書や筆記用具をまとめていた蘭も、窓の外を見て少しばかり気分が沈んだ。ちゃんと折り畳み傘を持ってきてあるため、帰宅の際困るようなことはないのだけれど。
次々に滴が窓に当たって下へ流れていく様子を見ていると、何故か憂鬱な気持ちになった。テスト期間中だから部活もないし。だからと言ってやることがない訳じゃないけど――。
溜め息を一つ吐くと、園子が隣から話しかけてきた。

「ゴメン蘭！　今日は用事があってすぐ帰んなきゃなんだ。だから、一緒に帰れないんだけど」
「そうなの？　分かった。じゃあ、また明日ね」
「うん、じゃあね！」

ぱたぱたと忙しなく駆けていく園子の背中を見送ってから、蘭は荷物の整理を再開した。明日のことをぼんやり考えながら、もう一度窓を見つめる。向こうに見える空はどんよりとした灰色で、下手な黒色よりも不気味で怖かった。

まるで、何か嫌なことでも起こりそうだ。

薄ピンク色に花柄の折り畳み傘を広げ、家路を急ぐ。時たま傘から流れ落ちる滴が制服を濡らすが、特に気にも止めずまた前へ進む。いちいち気にしてもしょうがない。こんな日には早く家の中に入っていたい。何でだろう？　蘭は自分でもよく分からなかった。

独りだから？　隣に、誰もいないから、だからなのだろうか。自問自答しながら、水溜まりを避けながら歩いていく。

「うわっ！」

その時、目の前で小学校低学年くらいの男の子が転んだ。どうやら、歩道の段差につまづいてしまったようだ。蘭は慌ててその子に駆け寄り、傘を傾けてあげた。

「ぼうや、大丈夫？」

「うぇーん、痛いよー」

泣きじゃくる男の子の膝を見てみると、うっすらと血が滲んでい

た。蘭は自分の鞄を開き、消毒液とティッシュ、そして絆創膏を取り出す。そして消毒液をティッシュに染み込ませ、膝に当てた。

「染みる？」
「ひっく……ううん」
「よかった。じゃあ、お姉さんが絆創膏貼ってあげるね」

絆創膏を貼り終えると、男の子は泣き止んでいた。仕上げに蘭は、ちちんぷいぷいとおまじないもしてあげる。

「ホラ、これで痛くないでしょ？」
「うん！　お姉さん、ありがとう」
「どういたしまして。気をつけて帰るのよ」
「はーい。バイバイ、お姉さん」
「バイバイ」

体もまだ小さいし、あの子は一年生だろうか。

「コナンくんと同い年……かな？」

あの子に比べたらコナンくんは本当に大人びている、と蘭は思った。泣いたりしないし、甘えたりもしない。あまりに彼が大人っぽいから、本当は小学生じゃないんじゃないかと疑う時もある。勿論、そんなのは思い込みに過ぎないのだろうけど、と自分で否定する。

かつて彼が新一じゃないかと思ったこともあったけれど、二人が一緒にいるのを見てその疑いはあっさり晴れたし。

蘭が探偵事務所の通りに出ると、丁度元太たちと別れたばかりのコナンの後ろ姿があった。蘭がいることに気づいたのか、コナンは傘ごと振り返った。

「あ、蘭姉ちゃん」
「コナンくん」
「「ただいまっ」」

同時に言って、思わず二人で顔を見合わせて笑ってしまった。
独りじゃないんだ。コナンくんが傍にいてくれるんだもん。そんなことを思うと、蘭の心の中にあった得体の知れない不安はすっと消えていった。

雨はまだ降り続いていた。しかし、空を覆う雲の色は、さっきよりも白んでいた。

（後書き）

読んでいただきありがとうございます（＾＾）
最終的に何だかよく分からん話になってしまいましたが（~＿~；）
私の住んでいる地域で今日まさに雨が降っていたため雨を題材にして書きたいなぁ……と思い一気に書き上げました。
気が向いたら同じ日のコナンＶｅｒ．も書くかも知れません。というか、書きたい！（笑）
その前に連載を何とかしろよという突っ込みが飛んできそうですが……。

感想や突っ込み等何かありましたら遠慮なく！
それではー。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0932l/

或る雨の日に。

2010年11月16日11時15分発行